

# 「英語教育改善プラン」に基づいた教員の指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～兵庫県～

英語教員の指導力向上を図るため、各地域で英語教育を推進するリーダーを育成

## 取組内容

- 1 兵庫教育大学と連携した「大学と連携した英語指導力向上事業」  
受講者：小：40名、中：40名、高：20名 計100名/年  
回数：年間各校種5日
- 2 兵庫教育大学と連携した研修協力校における公開授業及び研究協議会  
受講者：小・中・高等学校外国語及び英語担当教員  
回数：年間各研修協力校10回程度
- 3 外国語指導助手の指導力等向上研修  
受講者：ALT及び日本人英語科教員  
回数：2日間

－ 大学と連携した英語指導力向上事業における研修内容 －

校種	主な研修内容
小学校	ICTを活用した授業実践、授業プランの作成 等
中学校	4技能の定着、パフォーマンス評価 等
高等学校	協働学習の進め方、即興型ディベート 等

## 成果・課題

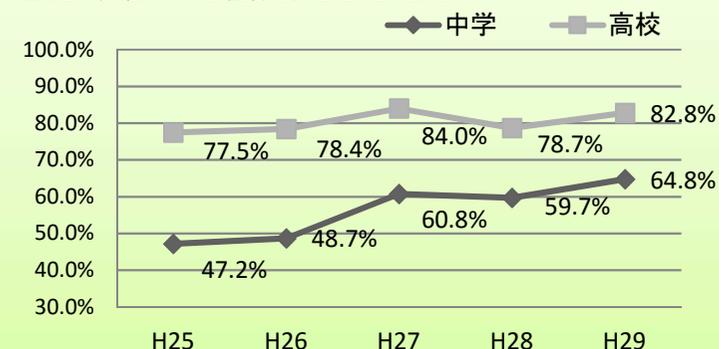
### 【成果】

- ・ 大学連携研修終了後に、各市町において伝達研修の実施を義務づけている。各市町の伝達研修受講者(中学校)は事業開始から、1,911人(のべ)になる。成果としては、本事業を開始した平成26年度と比較すると、「生徒の英語による言語活動時間の割合(※半分以上の時間、言語活動を行っている割合)」が、中・高共に増加するなど、全県的に言語活動を中心とした授業へと改善が進んでいる。
- ・ 研究校による研修会には、近隣の小・中学校の英語担当教員が参加し、地域の英語教育推進のための小・中・高連携強化と研究成果の普及を図ることができた。

### 【課題】

- ・ 事業終了後の継続的な研修の実施及び次期推進リーダーの育成

生徒の英語による言語活動時間の割合



## 課題解決に向けて

- 指導力向上のための継続的な研修の実施及び次期推進リーダーの育成
- ・ 英語教育推進リーダーを活用した授業改善にかかる実践研修をとおし、次期推進リーダーを各地域で育成する
  - ・ 県主催の悉皆研修や県立教育研修所におけるスキルアップ講座の開設等を継続的に実施する

## 現状の課題と問題解決のための手立て

- ・生徒自身が自らの英語力を客観的に把握すること。そのための手立として、CAN-DOリストの見直しと活用を継続的に行い、外部検定試験やGTEC等などへの取組を推進する。
- ・4技能を統合した指導を推進し、バランスよく4技能を習得させること。そのための手立として、プレゼンテーションやディベート等、高度な言語活動の効果的指導方法の確立を図る。

## 取組の内容

### ○兵庫教育大学と連携した英語指導力向上研修

- ・小・中・高等学校の教員100人(うち高校教員20名)を対象とした指導・評価方法等についての研修に年間各5日間参加。

### ○定期的な研究授業・研究協議の実施

- ・近隣の小学校・中学校・高校の教員への参加呼びかけ。
- ・大学教授による夏季休暇中の研修会実施。

### ○GTECの実施

- ・H30年度、全学年年1回、2学年文系クラス年2回実施。
- ・生徒の英語力の推移を客観的に把握。指導への有効活用。
- ・H30年度から新たにスピーキング分野も受験。

## 成果③

- ・外部試験のスコアを検証する中で、本校生の4技能のバランスを客観的な数字で把握し、授業改善のポイントが明確になった。
- ・ライティングに関して、昨年度に引き続き、今年度の3年生でも著しい伸長が見られ、2年からの1年間で約11ポイント上昇した。着実に発信力が育まれていることがうかがえる。
- ・リスニングに関しても20ポイント上昇している。
- ・英語検定受験者も増加し、準1級にも複数名合格した。
- ・外部試験受験に積極的にチャレンジするようになった。

## 成果①

### ○指導体制の構築

- ・CAN-DOリストの検討や定期的な協議を通して、3年間を見通した指導方針を教科で共有した。
- ・既習内容の定着のために音読活動に積極的な取組みができた。
- ・プレゼンやディベートなどの高度な言語活動の指導方法等について教科で検討する機会が増えた。
- ・地歴公民科や情報科など他教科と連携した指導を推進できた。

## 成果②

### ○コミュニケーションへの積極性

- ・生徒たちが英語で伝え合うことに抵抗感がなくなり、教室がコミュニケーションの場となりつつある。
- ・プレゼンテーションやディベートの活動において、より効果的なるように、ジェスチャー、デリバリーなど、相手に意見や主張を適切に伝えるための工夫を考えるようになった。
- ・パフォーマンス評価の回数を増やすことで、生徒が意欲的になった。

## 今後の課題・方向性

- ① CAN-DOリストの改善と指導と評価の更なる一体化
- ② 学年間の連携によりプレゼンテーションやディベートといった高度な言語活動の効果的指導方法の確立を更に推進
- ③ GTECのスコア分析と指導への反映
- ④ 4技能を統合した活動を取り入れた指導の更なる充実

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・語彙力が乏しいので、語彙力を身につけさせる
- ・英語の苦手意識を持っている生徒に、自信をつけさせる

## 具体の取組の内容

### ①ボキャブラリーコンテストの実施

語彙力向上を目的とし、年3回、各学年が独自の問題を作成し、実施する。満点を取った生徒には表彰を行っている。

### ②実用英語技能検定と全商英語検定の積極的な受験を奨励

長期休暇を利用して、各検定に向けた補習を実施したり、学校から関連図書を貸し出したりし、積極的な受験を促している。実用英語技能検定については、1次試験合格者に対し、学年を超えて英語教員全員で面接練習を行っている。

### ③特色ある授業

国際理解：英語でプレゼンテーションを行う力を身につけることを目的とし、海外について調べたり、日本の文化を外国人に向けて紹介したりする。

プレ課題研究（英語）：英語の紙芝居を作成し、幼稚園で披露する。

### ④修学旅行を活用した国際交流

修学旅行中に日本在住の外国人留学生と交流する。グループに分かれて、留学生から自国について紹介してもらったり、自分の住んでいる地域を紹介したりする。

## 成果①

### モチベーションアップ

ボキャブラリーコンテストや実用英語技能検定、全商英語検定など、結果が目に見えるものを目標に設定することによって、生徒のモチベーションアップにつながっている。（H29から1クラス減）

### 英語検定受験者

H27 336人、H28 315人、H29 239人、  
H30 240人（見込）

ボキャブラリーコンテストにおいては、満点者数が以前より増加し、コンテストの平均点は、上昇してきている。

### 満点者数

H29 第1回 14人 第2回 13人 計27人  
H30 第1回 12人 第2回 21人 計33人

## 成果②

### 英語を積極的に話そうとする姿勢

課題研究や修学旅行で、実際に英語をアウトプットする機会を得て、生徒は、「もっと英語力をつけなければ」と思うようになった生徒が増えたと感じている。活動を終えた後のアンケートにおいて、英語の関心を深める機会となったという感想が、半数以上あった。

そして、英語の授業に対する姿勢が前向きになってきている。

## 今後の課題・方向性

・現在、生徒のモチベーションアップにつながっている活動は、今後も続けていく。

・今後、実際に外国人と交流する機会を多く持てるように、タイの交換留学やALTとの交流の時間を持つことなどを積極的に勧めていきたい。

# 平成27～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～兵庫県立尼崎小田高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

【課題】CAN-DOリストの形式による学習到達目標の指導への反映

【手立て】各科目の評価に、CAN-DOリストに基づくパフォーマンス課題を設定し、実施する。

## 具体の取組の内容

### ○英語指導力向上研修の内容を踏まえた、年間3回の公開授業及び事前事後検討会の実施

「平成30年度大学と連携した英語指導力向上事業」の研修成果を元に、公開授業を3回実施する。指導案には尼小田CAN-DOリストの到達目標を明示し、各学年で目指す到達目標を共有する。CAN-DOリストと結びつけたパフォーマンス課題を実施し、ペーパーテストでは測れない英語力の伸長を図る。

### ○地域での小中高連携の拠点校的役割

上記の第3回公開授業を、「小中高連携英語授業研究会」として実施し、地域の小中高の教員に公開する。小中高の英語教育の情報交換を行い、地域で一貫したCAN-DOリストの共同開発を目指す。

### ○ICTの活用・他教科との連携

これまで本校の特色ある科目の中で実施してきた、ICTを活用したプレゼンテーションやディベートの指導を引き続き行う。合わせて、それらを年間の評価計画にのっとり、パフォーマンス課題として明確に位置づけ、ルーブリックを用いた評価活動を行う。

## 成果①

### ○生徒の英語力、学習意欲の向上

- ・英検、GTECを積極的に活用
- ・英検合格者の増加

2級以上 H26: 7名, H27: 23名, H28: 21名, H29: 31名

- ・GTECにおいては、成績の伸びが顕著

### ○生徒の外部コンテストでの活躍

兵庫県高校生英語ディベートコンテスト3位

### ○評価方法の充実

英語科担当科目(中国語、総合的な学習の時間を除く)13科目の中で、パフォーマンス課題(エッセイ、インタビュー、プレゼンテーション)を実施している科目が7科目あり、多様な評価方法がとられている。

## 成果②

### ○高大連携特別講義の実施

・兵庫教育大学、神戸市外国語大学等と連携し、英語発音特別授業やスピーチ発表の特別講義を実施。これらの学びの成果として、1学年では英語暗唱コンテスト、2学年では英語スピーチコンテストを実施。校内で実施する英語ディベートコンテストの優秀者は外部の英語ディベートコンテストにも参加。

### ○教員同士で学びあう機運の醸成

・CLILの授業理論を踏まえた英語科教員勉強会を実施。10名以上の本校教員(ALT含む)が参加した。

### ○外部発表機会を活用した学習

・6月近隣大学と連携し、国際科1クラスの生徒が、20テーマについて、英語ポスター発表を実施。  
・10月31日、11月1日に行われた「世界津波の日」高校生サミットに参加。世界49か国からの高校生とともに本校6名が英語によるディスカッション・発表を行った。

## 今後の課題・方向性

- ① 公開授業の結果や指導助言を受けて、尼小田CAN-DOリストや評価計画を改良し、指導と評価の一体化を目指す。
- ② パフォーマンス課題の実施を進め、多様な観点から英語4技能5領域の能力育成を図る必要がある。
- ③ 外部試験を活用し、尼小田CAN-DOリストと生徒の英語力の相関性を分析する必要がある。
- ④ 英語科内の各科目でどのような力を、どのように段階的に育成するのかを、学年を越えて、共有できるようにする。そのために、定期考査や使用教材を共有フォルダー等に蓄積する必要がある。

# 平成27～30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～県立鳴尾高等学校～

## 現状の課題と課題解決のための手立て

- ・生徒の意欲の喚起と英語によるコミュニケーション能力を高めるための効果的な英語教育システムの構築。
- ・有識者を招聘した研修会を持つなど、外部有識者等と連携した活動計画を立て、実行する。

## 具体の取組の内容

- ①県教育委員会が兵庫教育大学と連携して実施する「大学と連携した英語指導力向上研修」に参加し、そこで得た内容を教科会で伝達し、校内での授業実践に活用した。
- ②公開授業や校内研修、研究協議会を実施することで英語の授業における指導法の改善に努めた。
- ③全教科における公開授業週間を設け、教科を問わずお互いの授業を見せ合い、振り返りをする機会を持った。その際、第2学区内の中学校及び高校の英語科教員にも呼びかけ、研究協議会を行った。
- ④英語検定3級～準2級または、GTECのCAN-DOリストを参考にし、本校生徒の実態に応じた「鳴尾版CAN-DOリスト」を設定し、また年度毎に見直すことにより、不断の改善を行っている。評価という観点では、スピーキングによるパフォーマンステストを行い、生徒個人に対して適宜フィードバックをする等、形成的評価を行った。
- ⑤平成30年7月及び12月、第1学年全員にGTEC受験を課した。
- ⑥昼休みの“English Lunch”と称した英会話の取り組みでは、ALTと英語科教員が有志の生徒に対して、テーマに基づき英語によるディスカッションの機会を設けた。

### 成果①

○中高連携による指導体制の構築及び校内における組織づくり

・研究授業、公開授業を通して、英語科教員が校内での授業改善の牽引役となり、「主体的・対話的で深い学び」を主とした授業実践をしている。

・研究協議会を通して中高の連携が図れるようになった。(毎回他校から30名程の参加)第2学区の中学校の英語科教員も参加し、協議をすることで、英語指導法に関する情報交換が進んでいる。

### 成果②

○資格試験の受験促進と合格者数の増加

・生徒の英語学習に対する動機づけが高まり、英検の受験者数が増加した。

・英検 平成28年度 準1級12(0)、2級274(64)、準2級178(150) 平成29年度 準1級14(1)、2級134(52)、準2級99(56) \*受験者数(合格者数)

・GTEC 1年(320人)Speaking A2 163人 Writing A2 221人 B1 34人

### 今後の課題・方向性

- ①鳴尾版CAN-DOリストの不断の見直し、パフォーマンス評価を取り入れた、生徒の意欲を喚起する評価の在り方
- ②校内で「主体的対話的で深い学び」を実現するための英語科の役割
- ③中高での英語指導法の継続的な情報共有
- ④生徒の資格試験受験促進に係る受験料補助の財政的措置